

事業の名称

天心遺跡を拠点とした広域美術文化圏構想の萌芽的基礎研究 －北茨城市立富士ヶ丘小学校の廃校に伴う利活用を起点として－

〔事業責任者〕

(自治体等側)

北茨城市（市長公室企画政策課） 課長 鈴木 伸司

(大学側)

代表者：五浦美術文化研究所所長 小野寺 淳

事業テーマ：地域の教育力向上 自治体との連携 学術文化の推進

連携先

北茨城市（市長公室企画政策課）、高萩市教育委員会生涯学習課

主たるプロジェクト参加者

島 剛（教育学部・教授：美術系教員との連携と廃校活用）

片口 直樹（教育学部・准教授：美術系教員との連携と廃校活用）

千葉真由美（教育学部・准教授：社会系教員との連携と地域資料の整理・収集）

添田 仁（人文学部・准教授：社会系学芸員との連携と地域資料の整理・収集）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

平成 27 年度の事業計画

- ・ 県北地域固有の風土・景観を遺すスポット、地元で生み出されてきた文化遺産に関する所在情報について、基礎的な調査を行う。当該調査と自治体・学内に蓄積された知見をもとに、美術・文化・教育の領域で応用可能な素材の選出を行う。
- ・ 天心遺跡近隣の古民家・空店舗・廃校等の空き施設の現状を調査し、アートイベントを行うアトリエ・展示会場・研修施設等として活用する方法について研究するための基礎情報を収集する。また、近隣の住民団体や宿泊施設の現状を調査し、長期的な活動を支える連携・協力体制

のあり方について研究、協議する。

②連携の方法及び具体的な活動計画

- ・ 教員と学生が現地で資料収集などの調査や記録の蓄積を行う。
- ・ 年度内に成果報告会を開催し、所員の成果報告とともに、学外より講師を招聘し、先進的な事例の紹介を依頼し、次年度に向けた活動（イベント・小学校跡地利活用）のイメージ構成を行う。
- ・ 北茨城市立富士ヶ丘小学校の廃校に伴う利活用について、自治体の構想（1, 芸術系大学等の創作活動施設 2, 体験学習等のための宿泊施設）に沿った連携・協力体制のあり方について研究、協議する。
- ・ その他、廃校等の移設可能性と移設先候補地の調査や近隣旅館や民宿の協力体制づくり等の調査研究を行う。

③期待される成果

県北地域固有の風土、景観を遺すスポット、ならびに文化遺産に関する調査、および地域民間の歴史や伝承、美術・工芸の遺産発掘と調査研究（天心研究を含む）はもとより、これらに関する教育機能の研究開発と実践、さらには、美術・工芸に関する先端表現の奨励と情報発信等、時代の要請に基づいて地域性と国際性を併せ持つ機能を有効活用するセンターとして役割を果たすものである。

プロジェクトの実施成果

①活動実績

- ・北茨城市内の学校教員，特に美術系と社会科系の教員との意見交換会を，下記の日時に開催し，活発な議論が行われた。
平成 27 年 8 月 20 日（木） 午後 3 時～ 5 時
場所：茨城大学五浦美術文化研究所 天心邸
- ・北茨城市内の旧家，ならびに高萩市内の旧家に所蔵する史料を整理した。この整理作業には，人文学部・教育学部の歴史系の学生が参加した。
- ・北茨城市立富士ヶ丘小学校の廃校に伴う利活用について，本学の要望をお伝えし，北茨城市役

所と協議中である。

②プロジェクトの達成状況

上記の活動実績はおおむね達成したが，北茨城市内の旧家，ならびに高萩市内の旧家に所蔵する史料を整理が 50% ほど残されている。

③今後の計画と課題

本年度の計画のうち，成果報告会の開催の日程調整が困難であったため，次年度へ延期した。また，地域資料の整理の時間がかかり，50% を残している。さらに古民家調査，近隣の宿泊施設などの協力体制が残された課題である。